NO.2012.19 号
発行日：2012 年 08 月 30 日

検査のパレット

検査のﾊﾟﾚｯﾄ 16 号では、血小板の凝集について、検査のﾊﾟﾚｯﾄ 17 号では、“EDTA 依存症偽性血小板減少症”について、でした。
今回は、病的な血小板数異常の主な病名についてお話します。

血小板数異常の場合の主な病気

高値

骨髄増殖性疾患（血液系）　本態性血小板血症　慢性骨髄性白血病　真性多血症　骨髄線維症
反応性血小板増多症　出血　摘脾　手術後　悪性腫瘍（非血液系）

低値

1. 産生低下
   巨核球の低形成　再生不良貧血　骨髄浸潤（がん　急性白血病）　抗がん剤などの骨髄抑制
   無効造血　巨赤芽球性貧血（ビタミンＢ12 または葉酸欠乏症）
   骨髄異形成症候群（MDS）　発作性夜間血色素尿症(PNH)
2. 破壊亢進　突発性血小板紫斑病（ITP）　全身性エリテマトー-デス（SLE）
   薬剤（サルファ剤　キニジン）血栓性血小板減少性紫斑病
3. 分布異常　肝硬変　突発性門脈左亢進症　藩種性血管内凝固症候群（DIC）

など

検査室では、必ず　前回値のチェックを行い、血小板数が低値であれば、採血管内での血液ギョーコを確認し、必要であれば標本を作って、血小板凝集の有無を確認してます。
採血管内の血液ギョーコがあれば、再採血をお願いしています。
正確なデーターを出すため、採血しにくい患者様もおられるとは思いますが、ご協力、よろしくお願いします。

ご不明な点やわからない点がございましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。
今後とも検査室をどうぞよろしくお願いします。

文責：笠井　順子　　監修：石竹　久仁

※　この【検査のパレット】は、職員内での閲覧でお願いします。